

科目コーディネータ (科目責任者)	研究開発・共創センター長				問合せ先	医学部教務課 大学院担当			
科目コーディネータ所属					連絡先	内線5512、5511/ idaigakuin@j.iwate-med.ac.jp			
講義場所	-								
区分等	区分	講義	回数	前期8回	単位	1	配当年次	1・2	
担当教員	服部 有宏 (客員教授) 金田 安史 (客員教授) 奥 裕介 (非常勤講師) 南野 研人 (客員教授)				徳増 有治 (客員教授) 中原 崇人 (客員教授) 小林 博幸 (客員教授) 竹内 雅博 (客員教授)				
教育成果 (アウトカム)	教育成果						該当するディプロマポリシー		
	専門領域において高度な知識を実践的に活用して活躍する産業界・アカデミア所属の講師から、橋渡し研究や産学連携に関する知識を涵養することにより、研究アイデアの実用化やベンチャー企業の設立などに関する実践的な知識とスキルを学ぶ。大学発の研究成果の社会実装を促進することができる。						1,2,3,4,5,6,7,8		
達成目標	達成目標				対象講義				
	(1)	生命医学領域の研究開発の実際、および産学官連携の実例について理解し、イノベーション創出に必要な基礎的知識を修得することができる。			1,2,3,4,5,6,7,8				
	(2)	講義の中で直接指導を受け、様々な専門家の関与や産学協同の仕組みを理解し、自らの学びや知識を社会実装へつなげることができる。			1,2,3,4,5,6,7,8				
資格取得等									
成績評価方法	<p>【2021年度以降の入学者】 受講票により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点) の4段階評価とし、ABC (60点以上) を合格とする (60点未満は再提出)。</p> <p>【2020年度までの入学者】 出席、レポートなどにより総合的に評価する。</p>								
特記事項	<p>各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 受講票の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 講義資料、課題提出に関しては、Web Classを活用し、講義動画をe-learningシステムで配信する。</p> <p>【2021年度以降の入学者】 受講後2週間以内に「受講票」を作成し、Web Classにアップロードすること。なお、講義を欠席した場合やオンデマンド形式の講義、秋入学者については、e-learningシステムから講義動画を視聴し、別途指定する期限までにWeb Classにアップロードすること。</p> <p>【2020年度までの入学者】 講義の欠けは履修手帳で管理する。講義を欠席した場合は、e-learningシステムから講義動画を視聴し、別途指定する期限までに「受講票」をWeb Classにアップロードすること。</p> <p>&lt;当該科目に関連する実務経験の有無 有&gt; 様々な領域の専門家により、生命医学領域の研究開発の実際、産学官連携の実例、およびイノベーション創出に関する実践的な教育を事例を交えて行う。 ※2023年度入学者から、必修科目とする。</p>								
教科書・参考書	なし								

月日	曜日	時限	内容/到達目標	担当教員	講義場所
7月25日	土	1	<b>(1) トランスレーショナル・リサーチ（企業の創薬研究の実際）</b> 診断薬・治療薬の創出を出口戦略とする企業の創薬研究の進め方を理解し、論文作成を1つの目標とする大学での学術研究と上手く融合させ、大学発研究の社会実装につながる研究計画を立てることができる。	服部有宏 (客員教授)	Zoom
		2	<b>(2) アカデミアからの産学連携（産学連携の在り方）</b> 産学連携の構築や産学共同による大学発研究の社会実装に向けた実用化研究のあり方を理解し、その基本的な考え方を説明することができる。	金田安史 (客員教授)	Zoom
8月1日	土	1	<b>(3) 医薬品開発とPMDAの関わり</b> 診断薬・治療薬の創出に必要な PMDA 対面助言や薬機法を理解し、大学発研究の社会実装に求められる薬効・毒性試験、品質規格試験、治験プロトコルなどの規制当局対応に関する知識を身につけることができる。	奥裕介 (非常勤講師)	Zoom
		2	<b>(4) 知財戦略の立て方、考え方</b> 企業との産学連携に重要な知財の取得および維持に関する知識（知財を取得するための戦略や、他から知財を守るための戦略）を身につけることができる。	南野研人 (客員教授)	Zoom
8月22日	土	1	<b>(5) 創薬研究における障壁</b> 大学発の研究成果を社会実装する際の大きな障壁となる「死の谷」、すなわち非臨床研究から臨床研究へ移行する際に必要となる研究費の獲得について理解し、その基本的な知識を身につけることができる。	徳増有治 (客員教授)	Zoom
		2	<b>(6) 創薬の潮流</b> 新規モダリティ（核酸医薬、mRNA、細胞治療、中分子、Digital Therapeutics (DTx) など）に関する創薬の潮流を理解し、新規モダリティの実用化に向けた研究・開発・製造・品質・規制・DDSに関する知識を身につけることができる。	小林博幸 (客員教授)	Zoom
9月5日	土	1	<b>(7) ベンチャー企業の運営</b> 新薬創出の社会実装を目指した研究を進めるうえで必要となる、資金調達の受け皿となるベンチャー企業の設立と運営に関する知識を身につけることができる。	中原崇人 (客員教授)	Zoom
		2	<b>(8) ライフサイエンス・イノベーションについて</b> ライフサイエンス領域における新産業創造を目指した「オープンイノベーションの促進」と「エコシステムの構築」についての知識を深め、社会実装を目指した研究に関する基礎的な知識を身につけることができる。	竹内雅博 (客員教授)	Zoom